

教育

私の師

私の人生に最も深い影響を与えたのは、父のホセイン・アジミ(2001年に77歳で死去)。10年間を重なるに連れて、父の偉大さを感じている。国連訓練調査研究所(ユニタール)という国際的な仕事に就いたの

は、「外国で暮らし、価値観を広げてほしい」という父の思いがあったからだ。父は、イラン北西部のアルタバヒールで生まれた。カスビ海近くの緑豊かな街だ。11歳の時に父親をなくし、高校を卒業後、森林を管理する政府の仕事に従事していた。

国連訓練調査研究所(ユニタール) 特別顧問
ナスリーン・アジミさん



1959年イラン生まれ。17歳の時にスイスへ移住。86年ジュネーブの国際問題研究所で国際関係学修士号、98年にはジュネーブ大建築研究所で修士号を取得。91年からジュネーブのユニタール本部に勤務。同ニューヨーク事務所長などを歴任し、2003年初代の広島事務所長に就任。09年退任。11年から被爆樹木の種や苗を世界各地に送る活動に取り組む。ニューヨーク・タイムズなど米紙に被爆地広島への取り組みやフクシマの問題について寄稿。広島市中区在住。54歳。

偏見のない広い心糧に

外科医師になることを夢見たが、有能で貧しい人たちが唯一開かれていた家。不公正なことが大嫌いな私は、偏見のない広い心糧を学んだのだ。クラフメートにはユ

性別は、何の障壁にもな

た通りに進みながら、とても勇気づけられた。その1年後、後に父は病気で亡くなった。広島を訪れてもらう機会がなかったのが、本心に残念だ。父はきつと、核兵器廃絶のためのサポーターになつてくれた。父のように自然や文化、人を尊重できる人が増えれば、憎しみは生まれず、戦争は起きない。父の写真は、自宅に飾つてある。広島事務所長をやめた後も広島に残り、平和のための活動を続けていく私を、誇りに思ってくれてくれる。すつと見守ってくれていると信じている。(聞き手は増田咲子)

1 July 2013, Chugoku Shinbun
Thrive on unprejudiced wide-open mind
Ms. Nassrine Azimi talks about her father as a mentor of life.